平成29年度 自己評価表（最終）

中長期目標 (学校ビジョン)		社会人として通用する人間を育てる		今年度の 重点目標	①生徒指導の充実:「時を守り、場を清め、礼を正す」 ②「確かな学力」の定着:基礎学力の定着+キャリア教育の充実+自信と誇りの育成 ③地域との連携を推進する	年度当初		評価結果 (1)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策		評価	改善方策			
1. 生徒指導の充実:「時を守り、場を清め、礼を正す」	(時を守る) ・規則正しい生活習慣が身に付き、毎日を健康に送ることができている。 ・遅刻、欠席がなく、授業の始まる前には準備が整い、意欲を持って学習に臨んでいる。	・多くの生徒は朝食を食べるなど規則正しい生活習慣を維持できている。 ・生活習慣の乱れによる保健室利用は減少した。 ・欠席数は10%以上減少したが、通明けや遅半ばの欠席が多い。 ・2学期中途から遅刻が増加したため、登校遅刻(者)数は増加した。 ・始業前の授業準備はほぼできており、授業遅刻も減少した。	・健康や安全に対する意識が高く、規則正しい生活習慣のもとに学校生活を送ることができている。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上) ・生徒面談において、必要な生徒に対して生活指導を行う。 ・学校を中心に据えた行動意識が醸成され、学校生活のルールに基づいた学習習慣が定着している。(欠席数・登校遅刻数が昨年度より10%減少) ・授業準備は始業前に整え、授業に意欲的に取り組むことができている。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上)	・保健だより等をおして生徒・保護者に規則正しい生活と健康の大切さを啓発する。 ・生徒面談において、必要な生徒に対して生活指導を行う。 ・家庭への連絡を一層充実し、保護者と連携して生活習慣の改善を図る。 ・遅刻の多い生徒に対して、考査ごとに年次で指導を行う。 ・「入室許可書」の取組をもとに意識啓発を行い、授業遅刻のさらなる減少を図る。	・保護者にも協力いただき、保健室だよりを毎月作成・配布し、生徒・保護者の啓発を実施した。 ・平日の朝食摂取率が90%以上(11月自宅学習時間調査)。 ・生活習慣の乱れによる保健室利用は減少傾向にある。 ・学校評価アンケートで「規則正しい生活を送っていますか。」に「思う」と回答した生徒は0.7ポイントの向上だった。 ・生徒面談の充実もあり、1月末時点で、欠席者数は昨年度より約5.5%減、遅刻者数は昨年度より約24.8%減だった。 ・学校評価アンケートで「授業準備は始業前に整え、授業に意欲的に取り組んでいますか。」に「思う」と回答した生徒は6.0ポイント減少した。	C	・遅刻・欠席時の連絡がない場合の保護者連絡の徹底に継続して取り組む。 ・生徒の少しの変化も見逃さず、生徒との面談、保護者への連絡等早め早めの対応に継続して取り組む。 ・「入室許可書」の取組を継続する。			
	(場を清める) ・毎日の清掃活動を大切にし、気配りのある行動がとれている。 ・学校内が清潔に保たれ、整理・整頓が行き届いている。	・清掃活動は、職員の指導の下で概ね取り組んでいる。 ・教室内のゴミの分別が不十分である。 ・机の周りや個人ロッカー内の整理・整頓が不十分である。	・美化意識が高く、清掃活動に主体的に取り組んでいる。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が60%以上) ・環境資源に配慮したゴミ分別ができている。 ・身の周りの整理・整頓ができ、学習環境を整える習慣が定着している。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より10ポイント向上)	・朝の清掃活動、TEAS活動をおして美化意識を高める。 ・環境教育LHR等、ゴミ分別について定期的に啓発活動を行う。 ・個人ロッカーや私物を整理する時間を定期的に設定する。	・日々の清掃によって校舎内はきれいな状態が保たれているが、生徒の主体的取組はまだ不十分である。 ・学校評価アンケートで「清掃活動はきちんと取り組んでいますか。」に「思う」と回答した生徒は51% (1ポイント減少) だった。 ・ゴミ分別はクラスによっては改善がみられるが、全体的にはまだ不十分である。 ・学期末ごとに時間を確保して個人ロッカーの整理を実施したので、個人ロッカーの整理は概ね良い。 ・学校評価アンケートで「机やロッカーの整理・整頓をしていますか。」に「思う」と回答した生徒は48.5% (2.2ポイント向上) だった。 ・私物の机上や床への放置に対して指導を行ったが徹底できなかった。	・委員活動を活性化し、生徒の美化意識、環境意識の高揚を図る。 ・ゴミ分別、私物ゴミの持ち帰りを徹底する。 ・学期末ごとのロッカー点検を継続し、個人ロッカーの自己管理・整理整頓の意識の高揚を図る。 ・教室のロッカーや机の中の整理・整頓を点検し、荷物の持ち帰り等を定期的に実施する。	D	・ゴミ分別、私物ゴミの持ち帰りを徹底する。 ・学期末ごとのロッカー点検を継続し、個人ロッカーの自己管理・整理整頓の意識の高揚を図る。 ・教室のロッカーや机の中の整理・整頓を点検し、荷物の持ち帰り等を定期的に実施する。		
	(礼を正す) ・明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができる。 ・丁寧な言葉遣いと制服の正しい着こなしが保たれている。	・生徒会による挨拶運動の成果がみられ、自発的に挨拶する生徒が増加している。 ・TPOに応じた丁寧な言葉遣いが不十分な生徒がいる。 ・制服着こなしセミナーの効果もあり、大きな服装の乱れは減少した。	・明るい笑顔で相手の顔を見て自発的に挨拶ができる。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より10ポイント向上) ・TPOに応じた正しい言葉遣いができている。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より10ポイント向上) ・規範意識が高く、髪型服装規程を遵守して制服を正しく着こなししている。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より10ポイント向上)	・生徒会による挨拶運動を継続する。 ・教職員自ら挨拶を実践するとともに、社会における挨拶の大切さを説いて啓発する。 ・教職員の共通理解のもと、丁寧に毅然とした姿勢での指導を粘り強く継続する。 ・制服着こなしセミナーを年度当初に実施して、身だしなみを整える意識を高める。	・生徒会による挨拶運動も一時的な活動にとどまり、生徒の自発的な挨拶は数値目標を達成できなかった。(学校評価アンケートで「毎日の挨拶はきちんとしていますか。」に「思う」と回答した生徒は13.4ポイント減少) ・言葉遣いに関しても指導を行ったが、数値目標を達成できなかった。(学校評価アンケートで「丁寧な言葉遣いで人と接していますか。」に「思う」と回答した生徒は4.0ポイント減少) ・年度当初に全年次で制服着こなしセミナーを実施して日々指導を行ったが、制服の着こなしについても数値目標を達成できなかった。(学校評価アンケートで「制服をきちんと着ていますか。」に「思う」と回答した生徒は2.8ポイント減少) ・学校関係者や地域の方々から青高生の挨拶や服装等が以前に比べて良くなったという評価をいただいた。	・生徒会による挨拶運動の実施回数、実施方法を再検討する。 ・挨拶、言葉遣い、制服着こなし等、その場その場であるべき姿を具体的に示して指導する。 ・挨拶、言葉遣い、制服の着こなし、いずれも生徒の実態としては前年度と比べて少しくなっているが、学校評価アンケートの生徒の自己評価は低下している。設問、数値目標等の見直しも検討する。	D	・挨拶、言葉遣い、制服の着こなし、いずれも生徒の実態としては前年度と比べて少しくなっているが、学校評価アンケートの生徒の自己評価は低下している。設問、数値目標等の見直しも検討する。		
	(場に応じた対応をとる) ・式典等で開始時間までに整列が完了できる。 ・服装を整えて式典に臨むことができる。	・式典や集会の集合は速やかにできている。 ・状況を判断して行動を整えるということについては不十分である。	・TPOを判断し、その「場」に応じた行動ができる。(社会人として通用する行動を身につける) ・集団行動の中で「時間」を意識して、速やかな整列ができる。 ・その場に相応しいフォーマルな制服の着こなしができる。	・全体集合時だけでなく、学校生活のあらゆる場面で「整える」ということを意識させた指導を行う。(教室の机の整頓等も)	・集会時の集合は速やかにできるようになったが、整列には少し時間がかかっている。 ・指導に対しては素直に対応できているが、自発的行動にはまだ至っていない。	・引き続きタイムリーな指導(声かけ等)を粘り強く行っていく。	C			
2. 「確かな学力」の定着:基礎学力の定着+キャリア教育の充実+自信と誇りの育成	(基礎学力の定着) ・丁寧な学び直しが行われている。 ・学びに対する満足度が高く、真摯な態度で学習に臨んでいる。	・「基礎力診断テストのDゾーンの人数を10%減少させる」目標は3年次以外は未達成であったが、各年次で基礎学力の向上が見られた。 ・授業評価アンケートにおいて、多くの項目では3.0以上を達成した。 ・すべての年次、すべての調査回で学習力指数が2.5以上となった。	・生徒の学ぶ意欲が向上し、基礎学力の向上・定着がみられる。(基礎力診断テストの各教科のDゾーンの生徒の割合が各年次で年度当初より5ポイント減少) ・生徒の学習に対する満足度が高く、真摯な態度で学習に取り組んでいる。(授業評価アンケートの全項目が3.2以上)	・学力向上プロジェクトを中心に丁寧な学び直しを継続する。 ・ICT活用の研修、授業研究会の実施等、更なる授業改革を進める。 ・生徒との面談をおして生徒理解を進め、学ぶ意欲の向上を図る。自己肯定感を育む。	・国英の3教科を中心に「学び直し」に取り組み、少しずつ定着しつつある。 ・基礎力診断テストは、2年次の英語、1年次の数学・英語はDゾーンの生徒の割合が第1回より5ポイント以上減少し、1年次は三科総合でも5ポイント以上減少した。 ・面接週間以外に生徒面談を実施し、生徒理解に努めた。 ・今年度は学力向上プロジェクトチームは編成しなかったが、ICT活用教育推進プロジェクトチームを編成し、iPadを活用した授業づくり等を研究し、生徒の学習意欲の向上、基礎学力の向上に向けた方策を検討した。(H30年度からの重点校としての準備) ・落ち着いて勉強に取り組む姿勢が見られ、授業評価アンケートでも全項目で目標の3.2を上回った。 ・自宅学習時間については、2・3年次は昨年より減少したが、1年次は増加した。2年次は2学期に回復傾向が見られた。	B				
	(キャリア教育の充実) ・将来の社会生活や職業を見据えた科目選択と進路決定がなされている。 ・進路に係る教科外活動にも積極的に取り組んでいる。	・多くの生徒が自分の将来や進路について考えているが、目標の実現に向けた方策や行動が不十分である。 ・目標設定に迷い、進路志望が未定のままで学力不振となり、学習意欲を減退させたりしている生徒もいる。 ・講演会やサマーワークのインターンシップ等、生徒の進路意識高揚につながる取り組みを各年次で実施した。 ・進路学習取り組み度については、2年次生で向上が見られたが、1年次生においては変化がなかった。	・将来の社会生活を見据えた進路目標を見定め、意欲的に努力を積み重ねている。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より10ポイント向上) ・講演会等進路に係る教科外活動を通じて生徒の進路意識が高まっている。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より10ポイント向上)	・「産業社会と人間」、「青谷学」、「総合的な学習の時間」、「課題探究」等の科目をおして、生徒自らのキャリアデザインの意識を高揚させる。 ・進路指導部を中心に、生徒の進路探求の方法について再検討し、体系的な指導体制を確立する。 ・進路に係る校外での活動に引き続き積極的に取り組ませる等、進路探求に取り組ませる。	・年度当初計画したキャリア教育プログラムはほぼ予定通り実施した。 ・新しい教材も導入し、生徒のキャリアデザイン意識の向上に取り組んだ。 ・2年次で実施したサマーワークでは、84%の生徒がインターンシップに参加し、進路意識を高めた。 ・学校評価アンケートの「自分の将来や職業、進路について考えていますか」の問いに、「思う」と回答した生徒は43.1% (5.1ポイント減少) だった。進路実現に向けた3年次生は肯定的回答が8.7ポイント向上と大きく向上した。 ・「いろいろな講演会は進路や生き方を考えるのに役立っていますか」の問いに「思う」と回答した生徒は25.9% (3.0ポイント向上) だった。	・従来のキャリア教育プログラムの見直し、改善に取り組み、3年間を見通した指導を行う。 ・イベントありきではなく、事前事後の指導や個別面談等を充実させる。 ・「産業社会と人間」、「青谷学」、「総合的な学習の時間」、「課題探究」等のキャリア教育の全体計画の中での位置づけを明確化し、さらなる充実を図る。 ・入学当初や年度当初にキャリア教育の全体計画、年度計画を生徒に示し、生徒各自が自分のキャリアデザインを意識できるようにする。	C			
	(自信と誇りの育成) ・生徒会活動や学校行事に積極的に参加している。 ・部活動が活発で、活動への意欲が高い。	・生徒会活動や学校行事に意欲的に参加する生徒が増加しつつある。 ・活発に活動し、大会等で上位入賞等の成果をあげた部もあった。 ・生徒減による部員数の減少により、活動の維持、存続が困難な部もある。	・生徒会活動や学校行事において、自主的で活発な取り組みが見られ、生徒個々の参加意識や貢献意欲が高い。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より10ポイント向上) ・多くの生徒が部活動に継続的に取り組み、学習との両立に努力し、高い満足と自信と誇りを持っている。(学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より10ポイント向上) ・部活動の再編成について、方向性を明示する。	・生徒会活動や学校行事等様々な場面で生徒に達成感を持たせる。 ・自分を成長させる大切な場として、部活動の意義について啓発し、加入を促進するとともに継続的に取り組ませる。	・学校祭、居昌中央高校との交流事業、とっとり夢プロジェクト事業等で生徒の自主的・意欲的な活動が見られた。 ・活動に参加する生徒が、生徒会執行部を中心とした一部の生徒に限られていた。 ・学校評価アンケートの「生徒会活動や学校行事に積極的に参加していますか」の問いに「思う」と回答した生徒は24.7% (8.5ポイント減少) だった。 ・今年度部活動加入率は72.9%で、1年次生の加入率が低かった。 ・部員数が少なくて厳しい状況の中でも意欲的に活動する部が増えてきている。 ・「部活動は充実していますか(部活動加入者のみ)」の問いに「思う」と回答した生徒は44.5% (0.8ポイント向上) だった。 ・部活動の再編については協議を継続中である。	・生徒会活動や学校行事の企画段階や事前準備から多くの生徒に参画させる仕組みを作る。 ・部活動の加入率を高める方策に継続的に取り組む。 ・頑張っている生徒や部を全校生徒の前で称える機会を増やし、生徒の部活動に対する関心・意欲を高める。 ・部活動再編の推進のため、休部・廃部や創部等のルールを明確化する。	C			
3. 地域との連携を推進する	(地域への情報発信) ・学校の特色や生徒の活動などが適宜発信され、保護者、地域の理解度が高い。 ・生徒の校外活動が積極的に、地域からの理解や信頼が厚い。	・PTA広報誌の定期的発行(年4回)に協力し、学校の特色や生徒の活動などが適宜発信されている。 ・学校HPでの速やかな情報発信に努めたが、部活動情報の発信が遅れがちだった。 ・学校行事やPTA総会等、PTA行事への保護者の参加者が少ない。 ・地域行事や地域清掃等のボランティアに多くの生徒が参加した。(延べ77名参加) ・英語の読み聞かせ等、青谷小学校と連携した行事を行った。	・PTA広報誌が定期的に発行されている。 ・学校HPが時宜を逃さずに更新されている。 ・HPで行事や部活動等、学校の特色や魅力が発信されている。 ・HPの閲覧者数が増加し、保護者や地域の方々だけでなく、中学生にも本校に対する関心、理解が高まっている。 ・学校行事やPTA総会等、PTA行事への保護者の参加率が昨年度より向上する。 ・地域行事等にボランティアとして積極的に参加して地域からより大きな期待と信頼を得るとともに、生徒が有用感を実感し自己肯定感を高める。	・PTAと一層連携し、PTA広報誌の内容の充実と協力する。 ・教務部を中心に定期的に学校HPを点検して更新が滞らないようにする。 ・授業、行事、部活動などの情報提供を呼びかける。 ・学校HPの更新頻度を上げること定期的な閲覧者数の確保を図る。 ・HPに行事のお知らせを掲載するとともに、PTA役員による参加呼びかけを行う。 ・ボランティアの情報を提供するだけでなく、ボランティアの意義等について啓発を行い、積極的に参加する生徒を増やす。 ・地域と連携し、生徒が有用感や自己肯定感を実感できるボランティア活動の推進に継続して取り組む。	・PTAと連携して、PTA会報誌を定期的に発行した。 ・学校行事、授業の様子等、HPの更新を速やかにし、情報を提供できている。閲覧者数が4月から1月まで51,653名増加した。 ・緊急時の保護者・生徒への連絡を迅速にするため、マチコメールを導入した。(年度途中の導入であったため、登録率は1月末現在で53.0%) ・学校行事やPTA活動等への保護者の参加率は、学校祭等特定の行事では昨年より増加したが、その他の行事では例年並みであった。 ・PTA環境保健部では新しく講演会等を企画し、参加していただいた。 ・すぐく保育園ボランティア(前期10名参加、浜村駅前足湯清掃ボランティア(生徒会執行部の5名参加)等、生徒の積極的な活動も見られたが、ボランティアに参加した生徒は昨年度より減少し全校生徒の1割弱であった。 ・今年度は、青谷地域の行事「あおいち」に鳥取環境大学の学生と連携を取りながら、ボランティアとして参加した(10名参加)が、本校生が主体となった取組ではなかったため、生徒が有用感や自己肯定感を実感するまでには至らなかった。	B				
	(地域人財の活用) ・社会人講師等による多様な講演や研修が行われている。 ・学校評議員や地域の有識者との意見交換が定期的に行われている。	・社会人講師や地域の有識者による講演等を開催した。 ・学校評議員会等をおして、学校外の方の視点で意見を収集した。	・地域、保護者の方々から学校運営へ一層の協力が得られ、学校評議員や地域の有識者と定期的な意見交換を行う。(継続)	・学校評議員や地域人財との一層の連携を進める。 ・地域の人財の情報を収集する。 ・青谷学、地域環境芸術等の地域と密着した授業等をおして地域とのつながりを深める。 ・学校の現状や課題に即した講演会や研修を企画し、外部有識者の活用を一層促進する。	・青谷学・地域環境芸術等地域人財を活用した授業を実施(約130時間)し、生徒の地域理解を深めた。 ・「青谷学」を通して本校の教育活動に協力してくださる人財の情報を収集できた。 ・青谷地域の歴史・文化・ジオパーク・地域活動等に関する教職員研修は担当者のみの実施で、全体では未実施。 ・地域連携プロジェクトチームを編成。青谷学、地域連携に向かう体制を強化し、教職員の共通理解を進めるための組織づくりと運営ができるようになった。 ・いの中の講演会等外部人財を活用した講演や授業を実施(約20回)し、生徒が自らのあり方生き方を考える機会となった。 ・青谷高校活性化を支援する会に教職員が委員として参加(2名)、地域の有識者と意見交換等を行うことができた。	・HPの更新については、現在の取組を継続していく。 ・HPの古いデータを更新する。 ・閲覧者がさらに見やすくして利用しやすいものにHPを改善する。 ・マチコメール登録率を向上させるため、年度当初の案内を徹底する。 ・保護者がHP、マチコメール等の活用等、保護者へのよりよい案内方法を検討する。 ・「地域とシンクロナってみよう」をスローガンに、生徒の地域活動へのボランティア等での参加を推進する。 ・「青谷学」の授業で、地域活動(あおいち等)でのボランティアを推進する。 ・生徒が地域活動ボランティアで、有用感や自己肯定感を実感することができるようにする。 ・地域活動参加後、事後アンケート(参加生徒及び地域の方)を実施する。	B	・地域人財の情報収集に努め、青谷学等のさらなる充実と努める。 ・青谷地域の歴史・文化・ジオパーク・地域活動等の教職員研修等を実施する。 ・地域連携プロジェクトチームを中心に地域連携を推進する。 ・青谷高校活性化を支援する会等、青谷町総合支所と連携した取組を推進する。		

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]